

正誤表

本書中に訂正箇所がありました。訂正し、編集部による不手際をお詫び致します。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2023年9月1日）

■第1版 第1刷（2023年8月10日発行）の修正箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章-1 レジデントに伝えたい神経診断学					
21	図3内説明	⑧Babinski徴候陽性 ⑨Babinski徴候陰性(正常な足底反射)	⑧Babinski徴候陰性(正常な足底反射) ⑨Babinski徴候陽性		23/09/01
第3章-14 器質性？それとも機能的？機能的神経障害を診断するポイント					
245	図1内説明	器質性の場合：手に圧力がかかる 機能性の場合：かからない	器質性の場合：手に圧力がかからない 機能性の場合：手に圧力がかかる	※1参照	23/08/04
245	7～10行目	・Hoover徴候(図1)：器質性疾患による麻痺がある場合、健側の下肢を上昇させると患側の踵に加わる力は弱くなり、麻痺側の下肢を上昇させると健側の踵の下に置いた手に強い力が加わる。一方、機能的神経障害の場合、麻痺側の下肢を上昇させても健側の踵側の手に力は加わらない。	・Hoover徴候(図1)：器質的疾患による麻痺がある場合、健側の下肢を上昇させても患側の踵に力は加わらない。一方、機能的神経障害の場合、健側を上昇させると患側の踵に加わる力が強くなる。		23/08/04

図表

※1

